

施策3

家庭、学校・園、地域の連携の推進

1 親育ち支援事業の充実（教育推進課）（保育幼稚園課）（保健センター）

● 具体的な取組

（1）子育て中の保護者を支援する、「親育ち4・3・6・3たじみプラン[※]」の推進

子育て中の保護者が孤立するのを防ぎ安心して子育てができるよう、子育てに関する講習会の開催や保護者同士の交流の場、相談の場を提供します。また、各学校のPTA家庭教育学級が、身近な相談相手や親のコミュニティをつくる機会となるよう、市のPTA家庭教育学級で情報提供や情報交流を進めます。

（2）次世代育成フロアの特性と親子ひろばを活用した子育て支援事業の推進

教育委員会、保健センター、子ども家庭課、保育幼稚園課が次世代育成フロアとして同じフロアに位置していることを生かし、妊娠期から中学生期までの子ども達の成長を切れ目なく支援します。関係課と関係機関で親育ち事務局会議を年3回開催し、事業方針や連携の確認、情報交換を行います。

令和7年度計画（教育推進課）

・休日開催の参加者は多く、平日は人数が若干少なくなるものの満足度の高いアンケート結果を得られており、今年度と同様に休日4回、平日2回の開催を予定しています。

取組・実績

<実施内容>

- ・子育て応援セミナー「パパとママの初めての子育て講座」を開催しました。
（実施日）5/25(日)18名,7/15(火)27名,9/28(日)24名,11/30(日)30名,1/27(火)11名,3/15(日)
（対象者）第1子(月齢2～6ヶ月)の赤ちゃんとそのパパ・ママ
（参加者）37組 110名(1/27まで)
（事務局）NPO法人まある・教育推進課・保健センター・こども家庭課・食育推進課
- ・市のPTA家庭教育委員会で、講演会（サロン型）を開催しました。
（活動例）「「楽しい学校」を作るためにできることを考える」、
「いのちの教育」の推進
- ・事務局会議を実施しました。
（開催月）5月・2月
（内容）関係課で年間の事業計画や連携の確認をしました。

<主要な事業費（R7年度予算）>

- ・消耗品費 206千円
- ・委託料 100千円



成果・効果

- ・少子化により近くに同じ月齢の子を持つ親と交流することが難しいため、パパ同士、ママ同士で子育ての悩みや不安を語り共感し、安心できる貴重な機会となりました。
- ・親は、ママパパスクールから一歩進んだ食事や発達、抱っこの仕方、親子遊び等を実際に体験しながら主体的に学習することができました。
- ・親に子育て関係課やNPO法人との“つながり”があることを感じてもらうことができました。

令和8年度取組予定

・平日は人数が若干少なくなるものの満足度の高いアンケート結果を得られており、今年度と同様に休日4回、平日2回の開催を予定しています。また、令和8年度から講座名を変更する予定です。

令和7年度計画（子ども家庭課）（保育幼稚園課）

- ・次世代育成支援拠点と家庭児童総合支援拠点を統合した「こども家庭センター」を設置し、より一層、駅北3階フロアの関係機関が連携し、子育て支援を強化していきます。
- ・支援が必要になる恐れのある親を早期に発見し、親支援プログラムなどを通じて早期に支援につながるよう子育てコーディネーターを中心に、声掛け支援に取り組んでいきます。
- ・「マイ保育園・マイ幼稚園」を周知し、園への親子来園や育児相談等を促します。
- ・園での家庭教育学級を推進し、保護者同士のつながりを深め、家庭力の向上を図ります。

取組・実績

<実施内容>

・乳幼児期の発育や病気の予防について相談に応じたり、他の親と一緒に育児の悩みを共有したり学びを深めることで、育児負担の軽減や子育てしやすい環境づくりの構築に努めました。

（親支援プログラムを開催）

BP1_赤ちゃんが来た！：対象…2～5か月の第1子と母

BP2_兄弟が生まれた！：対象…2～6か月くらいの第2子以降の子と母

親子ふれあい教室：対象…1歳前後の子と母

SUP（親教育プログラム講座）：対象…子育てに悩む親を対象

（子育てコーディネーター等による連携の推進）

保健センターの10か月健診にて、子育て支援事業「マイ保育園・マイ幼稚園」について保護者に周知し、幼稚園・保育園の園庭開放への来園や育児相談などの利用を促しました。

・幼稚園を中心に家庭教育学級を各園で開催し、保護者同士交流し、家庭力の向上につながるよう活動を推進しました。

<主要な事業費（R7年度予算）>

- ・駅北親子ひろば業務委託料 7,302千円
- ・親教育プログラム講座委託料 947千円

成果・効果

・親同士の交流の機会、母の子育て不安解消の一助となる機会の創出を行うことができました。

BP1 7クル 計77組参加、BP2 3クル 計35組参加、親子ふれあい教室 12クル 計93組

SUP：2クル 計16組参加 ※年度末見込数

・子育てコーディネーターを中心に、乳幼児の発育や子育ての悩みを拾い上げ、家庭児童相談や発達相談など、関係機関へ適切につなぎ、保護者の子育て不安等を解消することができました。

・保健センターでの健診及び親支援プログラムを通じて、子育ての悩みや不安を拾い上げ適切な機関につなげることで、発信できないでいる保護者に寄り添う支援ができました。

・幼稚園・保育園の園庭開放行事に参加する親子が増加し、その際に育児相談などを実施しました。子育てに対する心配や不安を一人で抱え込まないよう身近な相談者となり、必要に応じて関係機関につなげました。

・園の家庭教育学級において、保護者役員を中心に座談会や一緒に学ぶ機会を設けることで保護者同士がつながりやすく、関係性が深まりました。

令和8年度取組予定

・次世代育成支援拠点と家庭児童総合支援拠点を統合した「こども家庭センター」により、引き続き、駅北3階フロアの関係機関が連携し、子育て支援を強化していきます。

・支援が必要になる恐れのある親を早期に発見し、親支援プログラムなどを通じて早期に支援につながるよう子育てコーディネーターを中心に、声掛け支援に取り組んでいきます。

・「マイ保育園・マイ幼稚園」を周知し、園への親子来園や育児相談等を促します。

・園での家庭教育学級を推進し、保護者同士のつながりを深め、家庭力の向上を図ります。

| 令和7年度計画（保健センター） | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産クラス、子育てクラスともに、月1回（年24回）の開催を予定し、出産前後の不安や心配を軽減し、ママとパパが2人で協力して子育てすることが意識できるようにしていきます。 ・妊娠届出時点で不安を抱えた妊婦さんには特に参加を促し、継続支援を行います。 ・講座への参加が困難な場合は、個別相談やオンラインでの参加も可能とします。 | | |
| 取組・実績 | | |
| <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦およびパートナー向けに「ママパパスクール」を実施しました。 <p>妊娠出産クラス 年12回 子育てクラス 年12回</p> <p>目的：妊娠・出産・子育てについて正しく理解し、夫婦で協力して子育てできるよう支援する。</p> <p><主要な事業費（R7年度予算）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師・保健師等報償費 250千円 | | |
| 成果・効果 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ママとパパが2人で出産・子育てについて学んだり考えたりする機会となり、出産や子育てへの意欲向上につながりました。特にパパに産前産後のママの体や心の変化やサポート方法を学ぶ機会となり、ママの不安の軽減や安心感にもつながりました。 ・専門職（助産師、保健師、栄養士、歯科衛生士）が、ママとパパの様々な相談に対応し、出産後も身近な相談場所の1つとして認識してもらうことができました。 ・他のママとパパ同士交流し、一緒にワークを実施する時間を設けることで、同時期に出産を迎える保護者がつながるきっかけとなり、孤立感の解消や同じ悩みを共有し、また助言し合える場になりました。 ・保健センターが支援の必要な方を発見する機会となり、必要に応じて適切な関係機関につなぎ早期支援を開始することができました。 | | |
| 令和8年度取組予定 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産クラス、子育てクラスともに、各々年8回の開催を予定し、出産前後の不安や心配を軽減し、ママとパパが2人で協力して子育てすることが意識できるようにしていきます。 ・妊娠届出時点で不安を抱えた妊婦さんには特に参加を促し、継続支援を行います。 ・講座への参加が困難な場合は、個別相談やオンラインでの参加も可能とします。 | | |

● 計画の成果目標

| 市のPTA家庭教育学級の参加者が「この企画は各学校のPTA家庭教育学級に生かせる内容であると思いませんか」の質問に対して「とてもそう思う」「思う」と回答した割合 | | |
|--|----------------------|-----------------------|
| 基準値（令和4年度） | 現状（令和7年度） | 目標（令和9年度） |
| — | 95.5%（第2回93%、第3回98%） | 85%（R6年度に80%から85%に修正） |

| 「パパとママの初めての子育て講座」の参加者（年6回開催） | | |
|------------------------------|------------------|-------------------------|
| 基準値（令和4年度） | 現状（令和7年度） | 目標（令和9年度） |
| 76人（年間6回中5回終了時） | 110人（年間6回中5回終了時） | 135人（R6年度120人から135人に修正） |

2 青少年健全育成事業の推進（教育推進課）

● 具体的な取組

(1) 青少年まちづくり市民会議が行う催しへの参加及び参画を推進

青少年まちづくり市民会議が行う催しに、子ども達が企画の段階から参加することで、自ら考える力、他者と協働する力を養います。また、地域の方とつながり、地域の活動に参加及び参画することにより社会性を養います。

(2) 各校区の青少年まちづくり市民会議の情報交流による活動の充実

各校区の青少年まちづくり市民会議で実施している活動について情報交流し、各校区の活動の参考にしてもらう機会をつくります。地域の実情に応じ、子ども達の活躍の場を増やします。

| 令和7年度計画 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・青少年推進会議の各会議内容を精査し、各回の内容を充実していく。 ・子どもを主体とした活動となるよう推進していきます。 |
| 取組・実績 |
| <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの主張大会」（多治見市大会）を6/14(土)にバロー文化ホール（小ホール）で開催しました。各校区の大会で代表となった発表者が、社会や世界に向けての意見、学校や家庭、友達との関わりで感じたことをテーマに主張を繰り広げました。 (発表者：小学校13名, 中学校13名) (来場者数：約280人) (ボランティア参加者：中学生16名) ・「多治見市まちづくり市民大会」を2/21(土)にバロー文化ホール（小ホール）で開催しました。池田・市之倉・滝呂校区の小中学生と地域の方が各校区の活動を報告しました。 (来場者数：集計中) (ボランティア参加者：中学生14名、発表者（児童生徒）集計中) ・「挨拶で絆の日」※を7/1(火)、11/4(火)に実施しました。 ・「青少年育成成功労者表彰」を「多治見市まちづくり市民大会」の第1部として開催しました。 (被表彰者11名) ・青少年育成推進会議を年に10回開催し、「わたしの主張大会」等の行事の準備に加えて、校区で実施している活動の情報交流を行いました。 <p>※小学生の登校時に、青少年育成推進員、学校の教職員、教育委員会の職員が行う挨拶活動</p> <p><主要な事業費（R7年度予算）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成推進員報酬 1,040千円 (40千円×26人) ・青少年まちづくり市民会議交付金 8,019千円 |
| 成果・効果 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が中学生ボランティアとして一緒に行事の運営をすることで、子どもが主体の行事づくりができたとともに、世代を超えた交流や地域の方との結びつきを持つ機会となりました。 ・各校区の情報交流をすることで、地域の実情に応じた活動に寄与することができました。 |
| 令和8年度取組予定 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域での成果や課題を共有し、子どもが主体の活動づくりを推進します。 ・会議や活動の記録を発信し、地域への周知を強化します。 |

● 計画の成果目標

| 青少年まちづくり市民会議が行う活動にスタッフとして参加した児童生徒の割合→延べ人数 | | |
|---|-----------|--------------|
| 基準値（令和4年度） | 現状（令和7年度） | 目標（令和9年度） |
| 5.0%（令和3年度結果） | 集計中 | 10.0%→1,000人 |

3 学校運営協議会の活性化 (教育推進課)




● 具体的な取組

(1) 全小中学校に学校運営協議会を設置

学校と保護者と地域住民がともに知恵を出し合い、協働しながら子ども達の成長を支えるため、令和9年度までに全小中学校に学校運営協議会を設置します。

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

学校運営協議会を活用し、地域と一体となって特色ある学校づくりをめざします。

| 令和7年度計画 | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・未設置の小学校（精華小）および中学校2校（笠原中、南姫中）の設置を推進します。 ・未設置の学校に委員の選任や組織づくりの方法を情報提供（活動報告書の作成、情報交流会の開催）します。 | |
| 取組・実績 | |
| <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭と地域が連携し情報を共有するため、学校運営協議会を定期的に開催しました。各学校3回～6回開催 ・小学校は全校、中学校4校（多治見中、小泉中、北陵中、笠原中（小学校と合同））に設置しました。（前年+2校） <p><主要な事業費（R7年度予算）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬（委員等報酬）2,160千円 ・交付金 900千円 | <p><会議の様子></p>  |
| 成果・効果 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域人財を活用した授業を実施するための支援体制を構築しました。（例：絵本の読み聞かせ等） ・継続している委員より、児童の成長している点を報告いただくこともありました。 ・授業参観、挨拶運動等を通して、児童生徒や教員の頑張る姿をみてもらい、学校と地域の結び付きが強くなり距離も近づきました。（例：交通安全教室） ・学校の施設管理状況等について情報共有し、より良い教育環境の実現に向けて意見交換をしました。（例：学校の畑や花壇の整備等） | |
| <地域による学校支援> | |
|  |  |
| 令和8年度取組予定 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・未設置の中学校4校（陶都中、平和中、南ヶ丘中、南姫中）の設置を推進します。 ・未設置の学校に委員の選任や組織づくりの方法を情報提供（活動報告書の作成、情報交流会の開催）します。 | |

● 計画の成果目標

| 学校運営協議会の設置数 | | |
|-----------------|------------------|-----------|
| 基準値（令和4年度） | 現状（令和7年度） | 目標（令和9年度） |
| 小中学校 21校中 10校設置 | 小学校 13校、中学校 4校設置 | 全小中学校設置 |

4 各種団体と連携したジュニアクラブの推進（教育推進課）

● 具体的な取組

（１）中学校の部活動・ジュニアクラブ活動の推進

ジュニアクラブ未加入者の理由の調査結果（令和４年度実施）を踏まえ、必要な対策を検討していきます。

（２）各種団体等の連携によるスポーツ及び文化活動の機会の拡充

関係課及び各種団体等と検討会議を設け、ジュニア期を含めた幅広い年齢層を視野に入れた生涯スポーツや文化活動を推進します。

| 令和７年度計画 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・新たに部活動・クラブコーディネーターを配置し、教育推進課、文化スポーツ課、市スポーツ協会、市文化振興事業団の連携強化を図っていきます。 ・ジュニアクラブの再整備・活性化の方針づくりとガイドラインの改正を引き続き進めていきます。 |
| 取組・実績 |
| <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ庁の「地域スポーツクラブ活動体制整備事業」により、新たに「部活動・クラブ推進員」を配置しました。教育委員会と文化スポーツ課・スポーツ協会・中体連といった関係機関を円滑につなぐ役割を担いました。 ・平成15年度から放課後・休日部活動は保護者が運営主体となり、部活動は地域展開が終了していますが、加入率の低下等の課題についての協議、ジュニア期を含めた幅広い年齢層を視野に入れた生涯スポーツや文化活動の推進のため、部活動地域展開検討会議を定期的に行いました。 実施月…4月・6月・8月・11月・1月・3月（予定） <p>メンバー構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会（教育長、副教育長、教育次長、主幹、部活動・クラブ推進員）5名 文化スポーツ課（課長・担当）2名 市スポーツ協会（事務局長他）1名 岐阜県地域クラブ活動推進コーディネーター1名 <ul style="list-style-type: none"> ・多治見市中学校校長会と連携して、今後の部活動の在り方について検討しました。 ・ジュニアクラブ保護者長会を初開催しました（年2回（4月・9月））。 ・ジュニアクラブ・地域クラブの加入率向上を目指して、「ジュニアクラブ・地域クラブ一覧表」「ジュニアクラブのメリットをまとめた文書」を作成し、新中学1年生保護者に配布しました。また、2月を「見学・体験月間」位置づけ、中学校入学前の見学・体験について啓発しました。 <p><主要な事業費（R7年度予算）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校体育連盟育成強化事業交付金 1,000千円 ・児童生徒選手団スポーツ派遣事業補助金 1,330千円 |
| 成果・効果 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・部活動地域展開検討会議では、部活動・クラブ推進員が国・県・先進自治体・大学研究者から得た情報を共有することで、令和8年度からの改革実行期間（前期）における本市の方向性が定まってきました。 ・部活動では、今後も「すべての子どもたちにスポーツ・文化を親しませたい」という方針を堅持することが確認できました。また、学校宛・保護者宛文書を作成、配布することで周知を図りました。 |

- ・部活動・クラブ推進員による各クラブの練習視察、クラブ保護者長会の開催を通して、所属人数の減少、中体連の大会への参加チームの多様化、指導者の資質等の課題が明らかになりました。各クラブと行政の距離が近くなり、風通しがよくなりました。
- ・ジュニアクラブ・地域クラブを紹介するパンフレットを作成して、新中学1年生保護者に配布することで、各クラブの情報を発信することができました。

令和8年度取組予定

- ・部活動・クラブ推進員を中核とした体制を維持し、国・県や先進自治体の最新事例を継続的に収集・共有することで、市の実情に即したモデルづくりや検証を進めていきます。
- ・ジュニアクラブの保護者長や各スポーツ協会との意見を踏まえ、各クラブや関係機関（文化スポーツ課・スポーツ協会・中体連）と定期的な意見交換や協議の場としていきます。
- ・文化スポーツ課と連携して、市ガイドライン改訂に着手します。
- ・パンフレットやWeb等を通じて、より分かりやすく発信する。生徒が自分に合ったクラブを主体的に選択できる環境を整えていきます。

● 計画の成果目標

| クラブ（地域クラブを含む）加入率<うちジュニアクラブ加入率> | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|--------------|
| 基準値（令和4年度） | 現状（令和7年度） | 目標（令和9年度） |
| 51.4%<39.2%> | 43.1%<21.7%> ※令和6年度 44.8%<20.4%> | 60.0%<50.0%> |

<市内中学生のジュニアクラブ・地域クラブ加入率(%)>

